

令和8年 **2**月の**優しさ**通信

目次

- (1)  施設に訴訟、割れる判断 入所者の誤嚥、責任どこまで
- (2)  高齢者の入浴 温度差注意 ヒートショックの恐れ
- (3)  児童虐待 22 万件 最多水準 2024 年度 「心理的」6割

(1) 施設に訴訟、割れる判断

入所者の誤嚥、責任どこまで 適切なケア水準 曖昧

*介護施設で起きた事故をめぐり、家族らが施設側の過失を訴える民事訴訟が後を絶ちません。

*背景には求められるケア水準の曖昧さがあり、「介護水準」の確立を求める声が上がります。

*介護現場は1対1で見守る人員配置になっておらず、ケアには限界があります。

*介護現場の職員は、利用者の意思を尊重しながら、同時に難しい安全確保の判断を求められます。

*個別性が高く、QOL（生活の質）が重視される環境の中でどの程度の介護が必要とされるのか議論を深める必要があります。

*全国の介護施設で3年間に4800件以上の死亡事故が起きていました。
(2026年1月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 高齢者の入浴 温度差注意 ヒートショックの恐れ

浴槽の溺死、10年で5割増

*2024年に自宅などの浴槽で溺れて亡くなった人は、前年比1割増の7776人。

*このうち95%（7363人）は65歳以上の高齢者。

*65歳以上が浴槽で溺死する事故は、過去10年で5割増。

*2024年の高齢者の交通事故死者（2103人）の3倍超。

*12月が最も多く、寒さが厳しくなる12～2月に年間の半数近くが集中。

- * 要因として多く見られるのが、急激な血圧の変化に伴って体調が悪化する「ヒートショック」。
 - * ヒートショックには血圧が上がった時に生じる「山型」と、下がった時の「谷型」の2パターンがあります。
 - * 「山型」は、暖房が効いた暖かい場所から寒い脱衣所に移動したときに起きやすくなります。
 - * 熱い湯船から出る際に起きやすいのが「谷型」。
 - * ヒートショック対策として、注意したいのが温度の急変。
 - * 入浴前に脱衣所や浴室をあらかじめ暖めておきます。
 - * 湯温は41度以下、湯につかる時間は10分まで。
 - * 同居家族がいれば入浴前に声をかけるといった習慣づけを。
 - * 世界の溺死者は年間30万人。
 - * 日本の10万人あたりの溺死者数は5.8人。
 - * 米国1.3人、韓国1.0人。
 - * 毎日の入浴は認知症の予防などに効果があります。
- (2026年1月15日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 児童虐待 22 万件 最多水準 2024 年度 「心理的」6割

- * 全国の児童相談所による2024年度の虐待相談対応件数が前年度から1818件減り、223,691件。
 - * 1990年度の統計開始以降、初めて減少に転じたものの、過去最多の前年度とほぼ同水準。
 - * 心理的虐待 133,024件 (59.5%、前年度比1924件減)、身体的虐待 52,535件 (23.5%, 912件増)、ネグレクト (育児放棄) 35,612件 (15.9%、853件減)、性的虐待 2,520件 (1.1%47件増)
 - * 心理的虐待のうち、子どもの前で家族に暴力を振るう「面前DV」は77,947件。
- (2026年1月31日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

